PRESS RELEASE

泉屋博古館東京 SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

東京館開館25年記念　特別展

そは、誰が袖

TAGASODE -Whose Sleeves ?-

2027年4月10日(土)－5月23日(日)

《展覧会概要》

衣桁や屏風にかけられたり、あるいは畳んで床に置かれたりしたきものを描く、「誰が袖（たがそで）図屏風」とよばれる一連の作品があります。それらのなかにはきものだけで構成されたもの以外にも、人物の存在を感じさせる香炉や印籠、双六や文机、硯箱などを配したものもあります。「それは誰のきものなのか？」という意味の呼称からも、たとえそこに人物が描き込まれていなくとも、鑑賞者が描かれたきものを通して、その先にそれらを身に着ける人物に想いを馳せていたようすがうかがえます。

こうしたきものはまた、ときに誰かを想い、偲ぶためのよすがとしても機能しました。それは貴人から賜った装束であったり、亡き人の形見であったり、そうした物語は枚挙にいとまがありません。

また、江戸時代の浮世絵では、着ているきものやその着装によって描かれた人物の身分や年齢などが示され、近代の美人画においても、きものの描写は大切な構成要素のひとつとなりました。美人画に描かれた女性たちがまとうきものには、画家たちの創意工夫が凝らされ、さらに鑑賞の場でも、人々の関心が集まる的でもありました。

そのきものは誰が着たのか、あるいはどんな場面で着られたのか、どのような機能を果たしたのか、そしてそれはどのように表現されたのか。本展ではこうした視点から、「誰が袖図屏風」をはじめ、近世に描かれた浮世絵や物語絵、また近代の歴史画や美人画などの絵画作品とともに、能装束や婚礼衣装などの染織作品もあわせて展示します。

《展示構成（予定）》

第1章　誰が袖図の世界

ひと口に「誰が袖図屏風」といっても、描かれている内容やその表現にはさまざまなバリエーションがあります。それらを一堂に並べることで、それぞれの特徴や展開を示すとともに、華やかなる「誰が袖図屏風」の世界を紹介します。

きものだけが描かれた「誰が袖図」。
染織の手法を用いた表現にも注目です！

《誰ヶ袖図屏風》
江戸時代・17世紀　泉屋博古館

文机の上には蓋の開いた硯箱。
そこにいたはずの人はいずこへ。

《誰が袖図屏風》
江戸時代・17世紀　根津美術館

珍しい銀地の「誰が袖図」！　巨大化する衣桁にもご注目。

《誰が袖屏風》江戸時代前期
J.フロントリテイリング史料館

第2章　彼の人がまとったきもの

それを実際に身に着けた人や所持していた人の情報が、ときに大きな意味をもつ染織品。ここでは伝承も含め、誰が、あるいはどのような人（役）が着たきものなのかといった観点から、能装束をはじめとする染織作品を紹介します。

豪華絢爛な金地の唐織。
能を愛した豊臣秀吉伝来とされた一領。

《金地枝垂桜蝶模様唐織》
江戸時代・19世紀
泉屋博古館東京

翁役が着る蜀江模様の狩衣。
白地に白で模様を織り出したきわめて珍しい一領。

《白地蜀江模様袷狩衣》
江戸時代・19世紀
泉屋博古館東京

第3章　きものをめぐる物語

きものは単に衣服としてだけではなく、貴人から下賜される褒美として、また亡き人を偲ぶよすがとしても機能しました。さらにきものは浮世絵や美人画の重要な要素となり、その表現に画家たちもさまざまな工夫を凝らしています。ここでは絵画作品を中心に、そうしたきものと人との関わりをめぐる物語を紹介します。

恩人である勝海舟の葬儀で身に着けた白直垂。
画家の想いが込められた作品。

川村清雄《形見の直垂》
明治32～44年（1899-1911）　東京国立博物館
Image：TNM Image Archives

丹念に描かれたきもの。
その模様表現には
執念すら感じられるほど。

上島鳳山《十二ヶ月美人》より
「十月　紅葉」
明治42年（1909）　泉屋博古館東京

《基本情報》

展覧会名	泉屋博古館東京開館25年記念　特別展 そは、誰が袖 TAGASODE –Whose Sleeves？ –
会　　期	2027年4月10日（土）～5月23日（日）
開館時間	11:00～18:00　※金曜日は19:00まで開館　※入館は閉館の30分前まで
休 館 日	月曜日、5月6日（木）※5 /3-5は開館
入 館 料	一般1,500円(1,300円)、学生800円(700円)、18歳以下無料 ※学生・18歳以下のかたは証明書のご呈示が必要です ※20名様以上の団体は( )内の割引料金 ※障がい者手帳等ご呈示の方はご本人および同伴者１名まで無料
会　　場	泉屋博古館東京 〒106-0032　東京都港区六本木1-5-1 TEL:050-5541-8600(ハローダイヤル) https://sen-oku.or.jp/tokyo/
主　　催	公益財団法人泉屋博古館

《貸出可能画像・キャプション一覧》

画像のお申込み・ダウンロードは、
オンラインリリース（ARTPR）をご利用ください▶▶▶

《誰ヶ袖図屏風》
江戸時代・17世紀　泉屋博古館

《金地枝垂桜蝶模様唐織》
江戸時代・19世紀
泉屋博古館東京

《白地蜀江模様袷狩衣》
江戸時代・19世紀
泉屋博古館東京

川村清雄《形見の直垂》
明治32～44年（1899-1911）　東京国立博物館
Image：TNM Image Archives

上島鳳山《十二ヶ月美人》より
「十月　紅葉」
明治42年（1909）泉屋博古館東京

《お問い合わせ先》　泉屋博古館東京　広報担当：橋本旦子
展覧会担当：田所泰（泉屋博古館東京学芸員）
TEL: 03-3584-8136　FAX: 03-3584-8137　E-mail : pr-tokyo@sen-oku.or.jp